

令和2年度飯山市美術館運営協議会（第2回）

日時 令和3年2月26日（金）15:30～

場所 飯山市公民館 101 会議室

1 開 会

2 あいさつ

- ・ 廣靖彦美術館運営協議会長
- ・ 長瀬哲教育長

3 自己紹介

4 協議事項

- (1) 令和2年度事業について（報告）
- (2) 令和3年度事業計画（案）について
- (3) 令和4年度以降の企画展等について
- (4) その他

5 その他

- (1) 委員の任期について
- (2) 次回運営協議会開催について

6 閉 会

○飯山市美術館運営協議会規則

平成9年3月21日教育委員会規則第3号

飯山市美術館運営協議会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、飯山市伝統産業会館条例(昭和57年飯山市条例第22号)第19条に定める飯山市美術館運営協議会(以下「協議会」という。)の委員の定数、任期その他必要な事項を定めるものとする。

(定数)

第2条 協議会の委員の定数は、12人以内とする。

(任命)

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識者から教育委員会が委嘱し、又は任命する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長)

第5条 協議会に会長を置き、委員が互選する。

2 会長が会務を総理する。

3 会長が事故あるときは、あらかじめ会長が指名した委員がその職務を代理する。

(協議会)

第6条 協議会は、美術館の運営に関し教育委員会の諮問に応じるとともに、教育委員会に対し意見を述べることができる。

(会議)

第7条 協議会は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(補則)

第8条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成18年2月20日教委規則第1号)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成20年3月24日教委規則第2号)

この規則は、公布の日から施行する。ただし、第1条の改正規定は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成27年3月31日教委規則第4号)

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

令和2年度飯山市美術館運営協議会委員 名簿

美術館運営協議会委員（敬称略）

	氏 名 等	備考（推薦団体等）
1	廣 靖彦（会長）	有識者
2	丸山 公人（会長職務代理）	飯山市芸術文化協会
3	吉越 隆師	飯山市芸術文化協会
4	千坂 経悦	飯山市高校美術科担当者
5	上海 一徳	飯山仏壇事業協同組合
6	西澤 直樹	飯山市校長会
7	森崎 鉄兵	社会教育委員
8	阿部 拓也	内山紙協同組合

教育委員会関係者

1	教 育 長	長瀬 哲
2	文化振興部長(兼)文化交流課長(兼)美術館長	桑原 雅幸
3	課長補佐(兼)美術館係長	井端 伸介
4	会計年度任用職員	木村 友子
5	会計年度任用職員	小林 隆子

	事業名	内容・効果等	期間・会場等	入館者数等
常設展示	常設展示(前期)	飯山市出身あるいはゆかりの芸術家で、これまで企画展を開催した画家の作品を中心に展示。	R2.4.1~R2.9.26	入場者数:792人 ※ギャラリー展含む
	常設展示(展示替え)	美術館収蔵品60~70点を展示した。	R2.9.27	
	常設展示(後期)	作家名等:長谷川青澄(日本画)・宮澤鉄夫(日本画)・佐藤武造(漆絵)・相原求一朗(油絵)・駒村久彌(油絵)・岩上隆静(水彩)・齋藤一郎(和紙作品)	R2.9.29~R3.3.31 (予定)	入場者数:1290人 ※ギャラリー展含む
ギャラリー展	伝統の技 工芸作家3人展	市の伝統産業である飯山仏壇の製作に携わる伝統工芸士3人(彫刻:森徳壽、蒔絵:藤澤一雄、彫金:三ツ井輝夫)による作品展を開催。彫刻・彫金・蒔絵の技法を活かして制作した、スマホスタンドやアクセサリー、一輪挿しなどの身近な作品の展示。	R2.8.30~R2.9.6 開館日数:7日 会場:ロビー	入場者数:248人
	河野文夫展 —在りし日の記憶—	令和元年度に個人から寄付を受けた河野文夫油絵作品37点のお披露目展として開催。山好きが縁で長野県の美術教師となり、戦後の美術教育に多大な影響を与えた教育者でもあった作者の色彩感覚極立つ風景画を展示。会期中の2日間(10/3・4)、「学びのエリア秋まつり(6館合同行事)」において「美術館クイズ答えは作品の中」を実施。	R2.9.29~R3.3.31 (予定) 開館日数:152日 会場:ロビー及び2階ギャラリー	入場者数:1290人 ※秋まつりの無料入館者数403人を含む
企画展	正受老人三百年遠諱記念展	臨済宗中興の祖と称される白隠禅師を正しい悟りに導いた正受老人の三百年遠諱を記念し、主として正受庵から正受老人にゆかりのある資料を借用展示する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため延期することとなった。	令和3年度に延期	
美術教室等	ワークショップ うちわ作り 「押して!貼って!うちわ」	郷土の和紙や土を使った造形教室を開催。身近な石や野菜に土から作った絵具を塗り、和紙にスタンプで模様をつけて竹骨に貼り、うちわを制作した。	R2.8.7 会場:公民館103	参加者数:7名
	ワークショップ ランプシェード作り 「マイランプシェードを作ろう!」	(予定) 郷土の伝統工芸である内山紙を使ったオリジナルのランプシェードを作る。 (公民館春休み体験教室)	実施予定日:3/24 会場:公民館103 募集人数:10名	参加者数:-----
施設整備等	防犯カメラ設置工事	既存の防犯カメラが老朽化により使用不可能となったため、新たに録画機能を備えた防犯カメラ8台及びモニター1台を設置した。	工期 R2.7.10~R2.8.31 完成 R2.8.11	
その他	美術品寄贈申出対応	①相原求一朗の油絵(F6号)1点 寄贈者:神奈川県在住の個人 ②佐藤武造の漆絵7点及び油絵1点 寄贈者:埼玉県在住の個人 ③長谷川青澄・小山敬三の色紙画等10点 寄贈者:飯山市在住の個人	寄付採納承認日 ①R2.5.1 ②R3.1.6 ③R3.1.6	
	新型コロナウイルス感染拡大防止対策関係	臨時休館した期間	R2.4.17~R2.5.17	

令和3年度事業計画（案）

1 常設展示

内容： 飯山市出身あるいはゆかりの美術家及び企画展を開催した美術家の作品を中心に常設展示を行う。美術館収蔵品及び借用作品を合わせて60～70点を展示する。

期間：①令和3年4月1日（木）～令和3年7月25日（日）※約3か月半
※4/17（土）・18（日）は第40回飯山市民芸術祭展示部門の会場として使用。
②令和3年9月18日（土）～令和4年3月31日（木）※約6ヶ月半

2 企画展開催事業

○『(仮称) 特別展 正受老人 300年遠諱記念展』

内容： 正受老人及び正受庵にゆかりのある遺墨などを借用展示し、白隠禅師を正しい悟りに導いた正受老人を内外に紹介する。展示資料は主に正受庵所蔵の寺宝を借用する。

期間： 令和3年7月31日（土）～令和3年9月12日（日）

ギャラリー展（仮称）飯山仏壇を支えた仏師たちと同時開催する。

備考：・正受庵の小菅住職の依頼により2019年11/13～15及び2020年11/18・19に花園大学歴史博物館及び禅文化研究所が正受庵の寺宝調査（前半）が行われた。美術館としては、調査を実施した志水研究員らから指導助言を受け、特別展の展示作品を決定したいと考えている。

3 ギャラリー展等

方針：市出身やゆかりの有無にこだわらず、市外の作家も積極的に紹介し、施設の有効活用・活性化を図る。

(1)『(仮称) 飯山仏壇を支えた仏師たち』

内容： 飯山市愛宕町出身の彫刻家・滝沢天友（1871～1909）は、かつて、高村光雲から善光寺の仁王像制作の協力を依頼されるが、残念ながら天友は制作前に急逝し実現しなかった。その後、光雲は米原雲海とともに制作するが明治45年の御開帳に間に合わなかったため、善光寺から依頼を受けた飯山仏壇に関わる仏師たちは1か月という短期間で仁王像を制作し、御開帳に間に合わせたとされる。

今回、平櫛田中と同格とも言われていたにもかかわらず若くして亡くなった天友の貴重な木彫作品2点と飯山仏壇を支えていた仏師たちがいかに善光寺の御開帳に協力したかをあらためて紹介したい。

期間： 令和3年7月31日（土）～令和3年9月12日（日）

※正受老人三百年遠諱記念展と同時開催する。

会場： 2階ギャラリー

(2) 『(仮称) 伝統の技 工芸作家3人展』

内容： 市の伝統工芸である飯山仏壇の製作に携わる伝統工芸士3人（彫刻：森徳壽・蒔絵：藤澤一雄・彫金：三ツ井輝夫）の作品展を開催する。

具体的な展示作品としては、ペンダントやブローチといったアクセサリーのほか、スマホスタンド、一輪挿し、銘々皿、壁飾りなど、日常に使用可能な身近に感じられる作品を展示する。

期間： 検討中

会場： 美術館ロビー

備考： 会期中に「彫刻」「蒔絵」「彫金」の体験教室（有料）を開催する。

(3) 仏像彫刻作品2体の展示及び感謝状贈呈

内容： 松本市在住の仏師・松田峯琳氏から寄贈を受けた千手観音菩薩立像と聖観音立像を2階ギャラリーに展示する。

また、4月26日(月)に飯山市長から松田氏へ感謝状贈呈を行う。

期間： 4月27日(火)～7月25日(日)

(4) その他

登録社会教育団体から利用希望があれば、随時、検討を行う。

4 ワークショップ・美術教室等

方針： 特徴ある美術館づくりを目指して、郷土の伝統工芸である“和紙”と地元の土から作った絵の具を使った絵画制作等のワークショップを継続して取り組む。また、美術家等に協力を仰ぎ、美術を身近に感じ楽しむためのギャラリートークやワークショップを実施する。

○夏休み・春休み体験教室の美術・図工の講座を担当実施

市公民館主催の小中学生を対象とした夏休み・春休み体験教室において、美術・図工関連の企画立案と運営に関わる予定。

実施内容については、今後、検討していく。

5 五郷研修館の活用・県外在住作家との連携

美術館活動の活性化を目的として始めた活動で、過去に五郷分校の作家たちによる企画展も開催したが、現在は活発に制作活動が行われている状況にはない。

また、令和2年度はコロナ禍の影響により、使用実績は皆無である。

令和3年度は、コロナ禍の状況を見ながら可能であれば、現在、日本大学芸術学部教授の瀬島匠氏を招いて特別授業等の開催を検討したい。

研修館を使用している美術家：

- 原田卓三（大阪府在住、東京芸術大学大学院修了）
- 瀬島 匠（東京都在住、武蔵野美術大学卒、日本大学芸術学部教授）
- 内田 寛（愛知県在住、名古屋芸術大学卒）
- 星 晃（埼玉県生まれ 武蔵野美術大学造形学部日本画学科卒）

6 管理運営関係

（1）開館スケジュールについて

◎臨時休館する日

4/16(金)・4/20(火)	春の展示替え ※4/17・18の二日間は飯山市民芸術祭
7/27(火)～7/30(金)	三百年遠諱記念展開催に伴う展示替え ※調整中
9/14(火)～9/18(土)	三百年遠諱特別展終了に伴う展示替え ※調整中

7 その他

（1）市民ギャラリーの有効活用

- ・市民ギャラリーの利用を広報飯山やi ネット（ケーブルテレビ）で呼びかける。
- ・市民ギャラリーとして使用している場所
 - ①公民館1階廊下の壁面
 - ②公民館階段の壁面
 - ③公民館2階ロビーの壁面
 - ④公民館側の図書館入口手前のガラスケース

（2）広報活動について

- ・パンフレットにQRコード掲載
- ・広報飯山、i ネット、防災無線放送を活用した美術館情報の発信等

令和4年度以降の企画展等について

令和4年度 (2022)	(準備中) 和紙作家・森田千晶展	飯山市で開催された「和紙の仕事大賞コンペティション」において大賞(H18)と優秀賞(H17)を受賞した和紙作家・森田千晶(埼玉県出身在住)の作品展を開催予定。 当初、令和3年度の開催を予定していたが、作家本人から新型コロナの影響等により令和4年度開催に延期したいと申し出があった。 ・令和元年8月に森田氏本人が美術館展示室の下見を行うなど準備を進めている。
	(候補) 佐藤武造展没後50年 記念展	佐藤武造(1891~1972)は飯山市瑞穂地区出身の画家で、漆絵を考案した画家として知られ、地元を中心に作品所蔵者も多いことから、市民から没後50年の節目に個人所蔵の作品を数多く展示した企画展の開催を希望する要望が寄せられている。
令和5年度 (2023)	(候補) 岩上隆静没後10年記 念展	飯山市秋津地区出身の画家・岩上隆静(1930~2013)は北信濃の風景を精力的に描いた。 平成14年に企画展を開催。
	(候補) 写真家・星野秀樹写真 展	福島県出身飯山市岡山地区在住の写真家・星野秀樹氏(1968~)の飯山市の自然の魅力を余すことなく捉えた写真の展覧会。2015年飯山市に移住。
令和6年度 (2024)	(候補) 長谷川青澄没後20年 記念展	市美術館を代表する画家・長谷川青澄の没後20年の節目となる企画展を開催。詳細は今後検討。

【美術館として企画展またはギャラリー展を検討している作家】

宮本純夫(1952~)	山ノ内町出身中野市在住の画家。 漂白剤を使用した独自の技法による絵画制作を継続している。
小林 宏(1968~)	飯山市木島地区出身山梨県在住、東京芸大美術学部日本画科卒業 植物を描いた日本画作品が多い。2017年と2019年はパリで個展開催。
山田一道()	中野市出身在住、国画会会員の洋画家。アクリル絵画。 具象的な様々なイメージを画面上に構成した作品。

【個人から個展開催の推薦があった作家】

早津 剛(1938~)	新潟県出身在住、油絵、風景画家 茅葺の民家や古い街並みを描き続けている。
-------------	---